第６回音韻論フェスタ(6th Phonology Festa)　2011 年 2 月 17 日（木）、18 日（金）

言語調査は、音声学・音韻論から始めるのか

(Do phonetics and phonology come first in linguistic field research?)

梶　茂樹

（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

世界には約 7000 の言語があると言われているが（国際 SIL のデータベース ethnologue）、十全な調査ができているのはごくわずか。世界の言語は調査されるのを待っている。

知らない言語を調査する場合、われわれは通常、語彙調査票を用いて調査を行う。そして語彙調査票は、通常、1.頭、2.髪の毛、3.額のように、名詞、とりわけ身体部分名称から始まる。そして実際、「頭なんていうの」「目は」と聞いていくわけであるが、これは決して、たんに単語を集めているだけではない。それは音韻の分析であり、形態論の問題であり、また統語論や意味論の問題でもある。さらに、インフォーマントの年齢や性差によって生じる社会言語学的問題なども同時に生じている。

われわれは、言語学を習う時、通常、音声学・音韻論から形態論、統語論という順で習っていくが、言語というのはトータルな存在であり、決して、音声学や音韻論の問題のみが最初に出てくるわけではない。調査に当たって、もし音声学・音韻論の問題が片付かなければ形態論に進めないなどと考えていたら、調査は永遠に終わらない。音声学・音韻論の問題がすべて片付くことはあり得ない。実際、われわれもしばしば経験することであるが、3 年ぐらい経って、こんな音韻的区別もあるんだということがわかることがある。

この講演では、アフリカ・ウガンダのニョロ語の例を取り、調査の第 1 項目「頭」から、如何に音声学、音韻論、形態論、統語論が絡み合って出てくるかを示す。(1)(2)のような例を用いる。

(1)「頭」の単独形

omútwê　「頭」sg.

emítwê　「頭」pl.

(2) 様々な名詞に所有形容詞「私の」がついた場合

omútwé gwâɛ́ŋge　「私の頭」sg.

eríɛ́so lyâɛ́ŋge　「私の目」sg.

ekitábu kyâɛ́ŋge　「私の本」sg., pl.

amáízi gâɛ́ŋge　「私の水」sg.,

orugóye rwâɛ́ŋge　「私の服」sg.

okújú kwâɛ́ŋge　「私の膝」sg.

akakeɛ́kéɛ́yo kâɛ́ŋge　「私の篩」sg.